新興の野付牛大鑑

特268-229
1200501125941
381
特268
29

特268
229

新興の野付牛大鑑

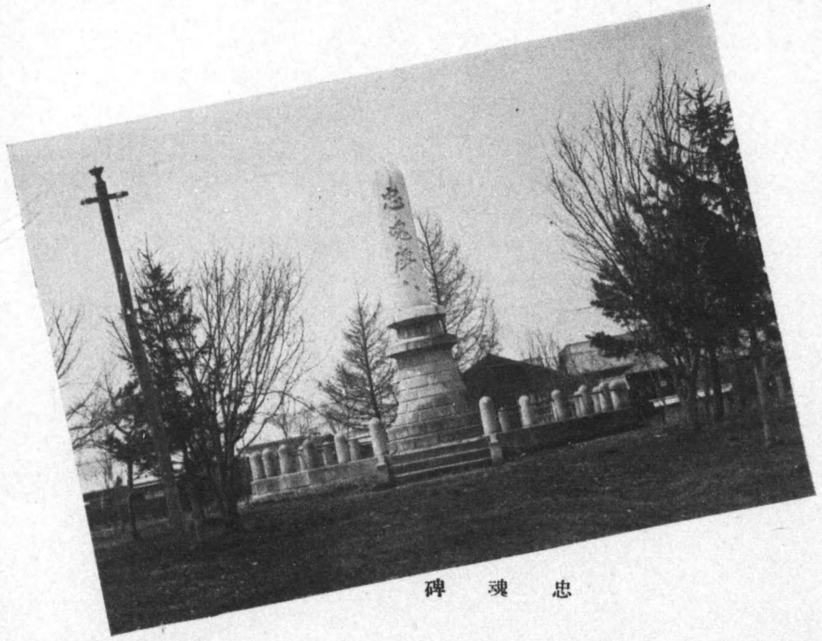
昭和十三年度版

自序

本社創立以來三年、未だ日淺しと雖順調な道程を辿り今日に至るは廣く諸彥の御協讃の賜に外ならず感謝に堪へざる處である。現下の野付牛は非常時局下にあり自肅の氣あるも國際狀勢の然からしむる波動にて介するに足らず、大局的には北見中樞の商工都市として著しい躍進振りを示し四圍に資源豊かな沃野を擁し本道屈指の農業地帶をなし殊に特產薄荷は世界生產額の八割を占む、薄荷王國の名稱故なきに非ず、隨つて農產加工は本町工業の進展を檀に扶け一面酪農事業の勃興と相俟つて北見工業界に君臨、設置を約束されてゐる人絹パルプ工場など將來刮目すべきものがある。教育交通の中心地として市制實施も近く躍進野付牛は潑溂たる前途に希み多い青年都市と謂はねばならぬ。翻つて四十年前開拓の當初を顧れば千古斧鉞を入れざる森林、果なき草原、狐狸の住むに任せ誰が今日の殷賑を豫測し得たであらう。本社は玆に汎く野付牛の現況を紹介將來を語る資とせんと寫眞集錄「躍進・野付牛寫眞大觀」編纂を企圖せるに直ちに理解ある諸氏の御讃同を得、短時日を以て成る誠に欣快に堪へず、鴻湖の資の一端ともなれば幸甚である。

新興野付牛大鑑

編者識



忠魂碑

社神

驛前

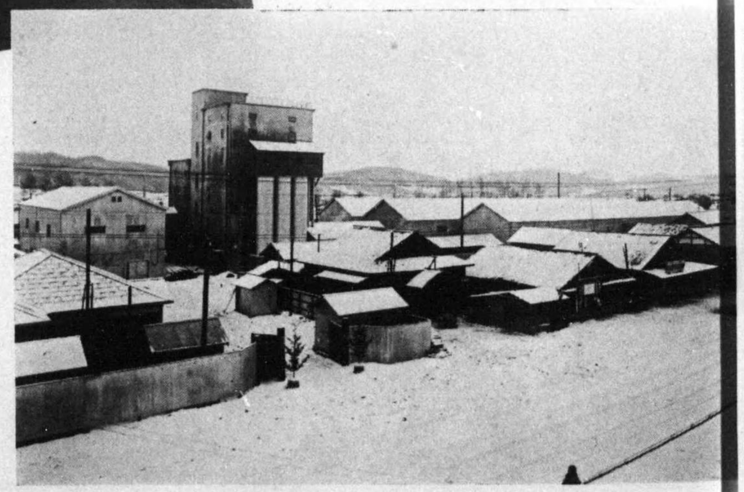
野付牛町の開拓は遠く四十年前に始まる、即ち明治三十年六月此處に屯田兵村の設置を見たるに始まり其の後戸長役場と屯田兵中隊とに兩立して、行政を行なひつゝ有つたが明治三十六年に至り屯田兵の現役滿期と同時に一般行政事務を戸長役場に移管此處に一村統一の行政を見るに至つた。明治四十二年四月北海道二級町村制を施行せられ生頴村を併せて野付牛村と改稱、明治四十四年九月網走線池田野付牛間の一部に鐵道の開通を見たるを始めとし大正元年十月迄には池田網走間、名寄線野付牛留邊蘂間の一部開通を見、之より人口急激なる增加を示し、大正四年四月北海道一級町村制の施行を見ると同時に置戸留邊蘂の兩村を分割更に五年四月常呂郡の一部を編入、十年四月には端野村を分割して現在の野付牛町となり其の後交通機關の完備に伴ひ商工業の進展著るしく東北海道に於ける樞要地として堅實なる發達をなしつゝあり。

北見農事試驗場

西一條通り

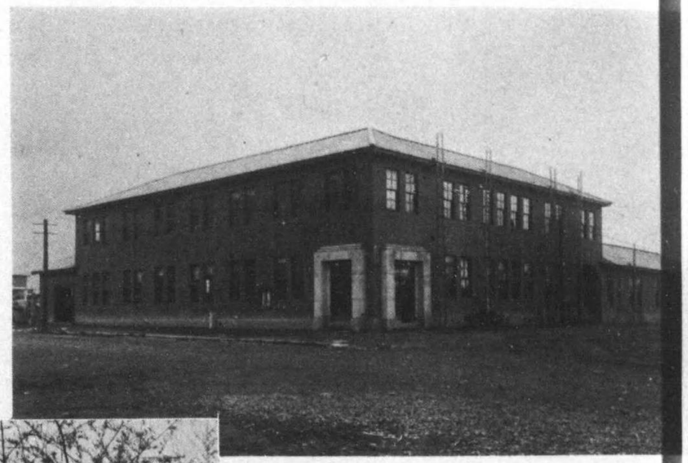
三樂園

森林事務所



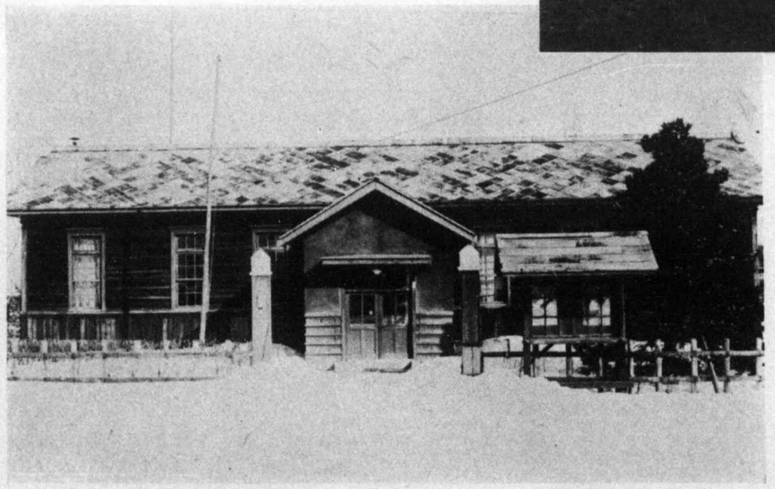
日粉野付牛工場

野付牛運輸保線事務所



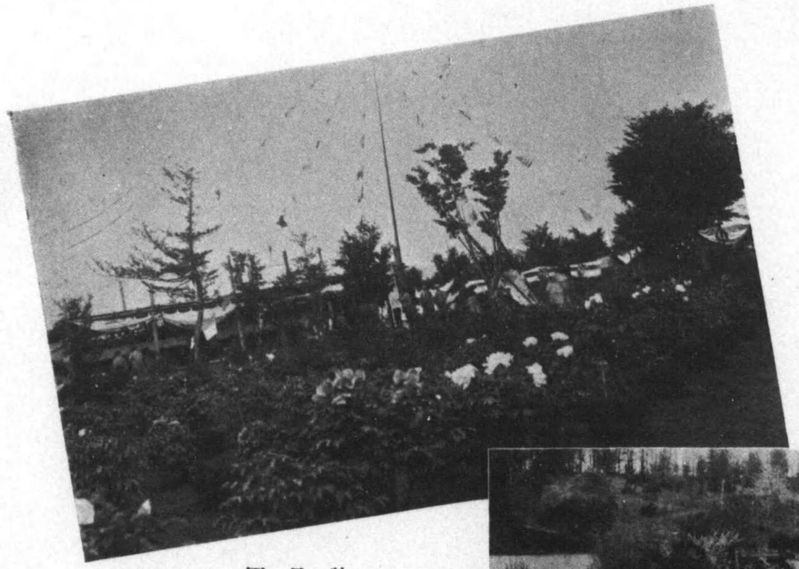
郵便局

羊綿



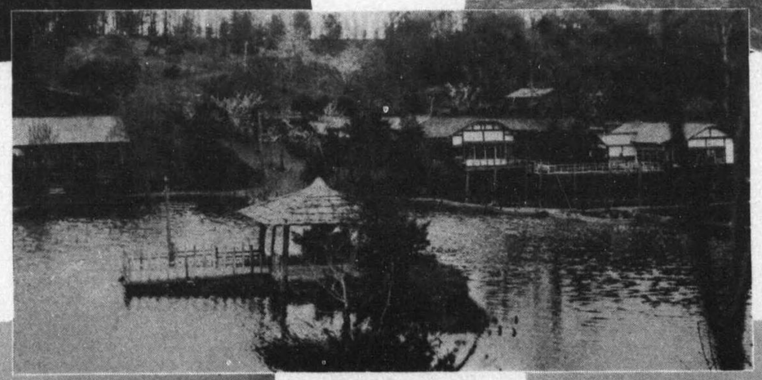
營林區署

大通り西部を望む

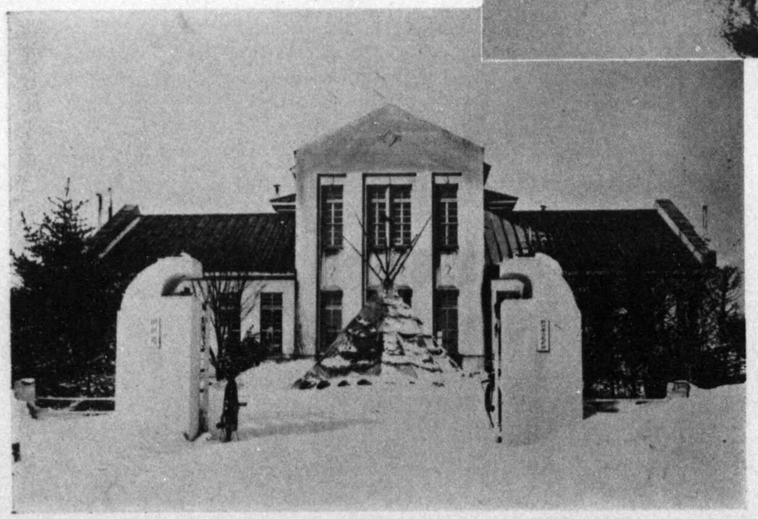


牡丹園

三條通



野付牛公園



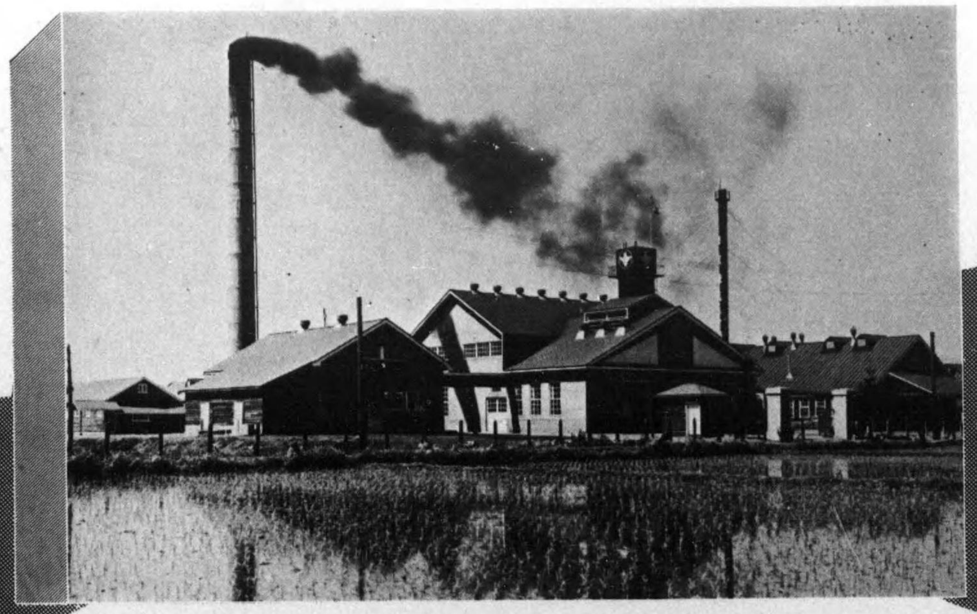
野付牛區裁判所

二條通り

森永練乳株式會社

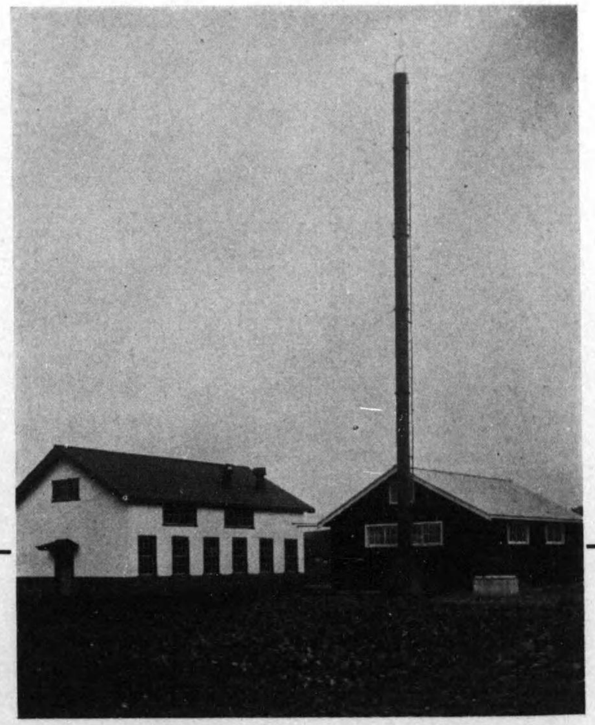
野付牛工場

大正十四年一月兵村一區に設置、爾來畜牛の增加による原料牝の激增は昭和四年六月に現在地へ移轉擴張、同十一年六月第二回の擴張となり、見るからに東洋一の生產大工場である、製品はバター、ドライミルクコンデスミルク等にして更にジヤム等を製し廣く海外に輸出し野付牛產業陣の王座を行き業績の進展は更に宮工場長、七海庶務主任の名コンビで幾多のフレシユ味をそゝぎモー〳〵たるある大煙筒よりあがる煙りこそ躍進森永のシンボルである、驛より約東方へ二十町定期バスの運行あり。



保證責任 北海道製酪販賣組合
聯合會野付牛工場

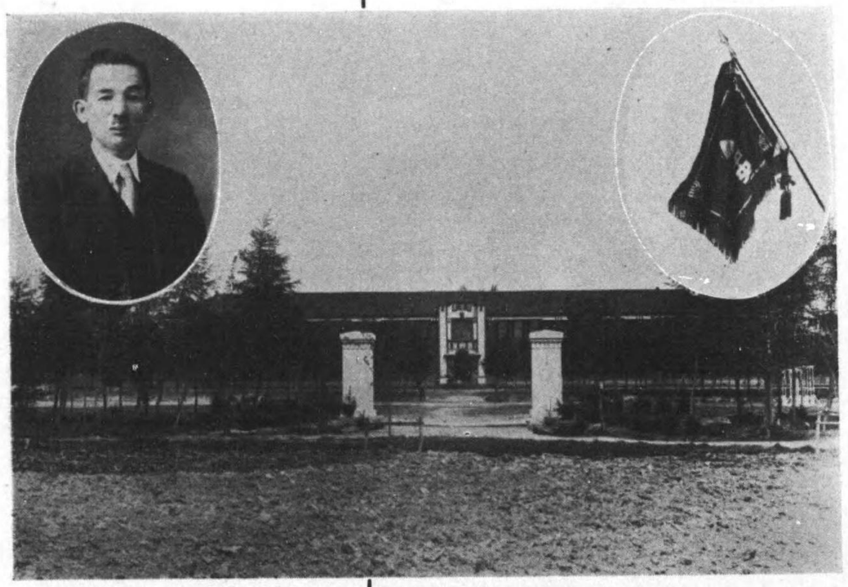
今やガゼインは軍需インフレーの波に乘つて不可欠の特種品として國家的に大きな役割を有するものであるこの秋、同工場は逐年製產の能率をあげ將來に大きな曙光をなげてゐる。



大日本電力株式會社
野付牛事務所

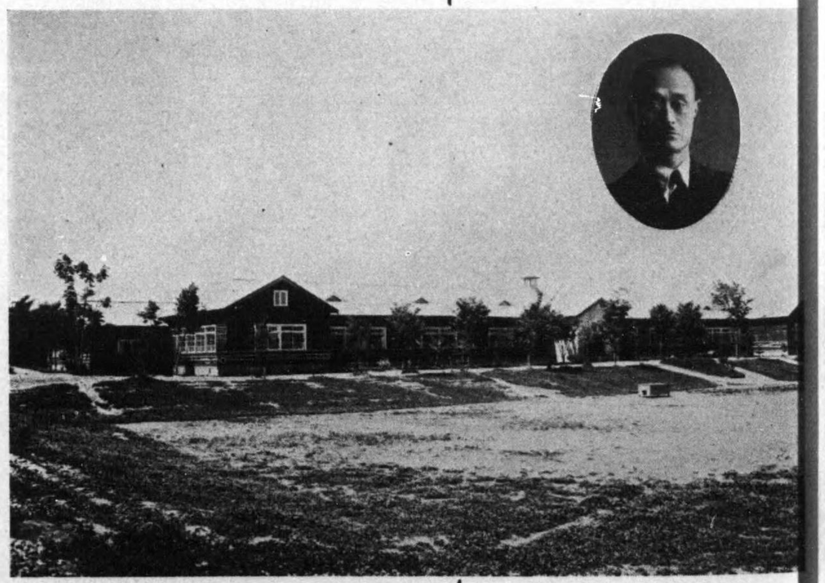
社長 穴水熊雄
野付牛事務所長 藤森賢三

大正五年十月二十九日北見火力電氣株式會社として創立、同五年九月留邊蘂電氣株式會社の一部を讓渡、同八年三月二十日北見電氣株式會社と社名變更されその後美幌、網走、紋別、湧別淺別の各電氣株式會社と合併北海道電氣株式會社と改稱後富士電氣株式會社となり大正十年十二月二十一日北海道電燈株式會社と社名變更、大和木材會社置戸電氣所、湧別川水力電氣株式會社の事業讓渡後事業擴張の爲大日本電力株式會社と昭和九年十二月二十一日社名變更され現在に至つたものなるが其の供給區域は北海道四分の三、秋田縣大半、山形縣一部、福島縣一部茨城縣大半、栃木縣一部、資本金一億八百八萬圓で北見火力電氣株式會社としての創立當時の供給區域は野付牛訓子府のみであつた。



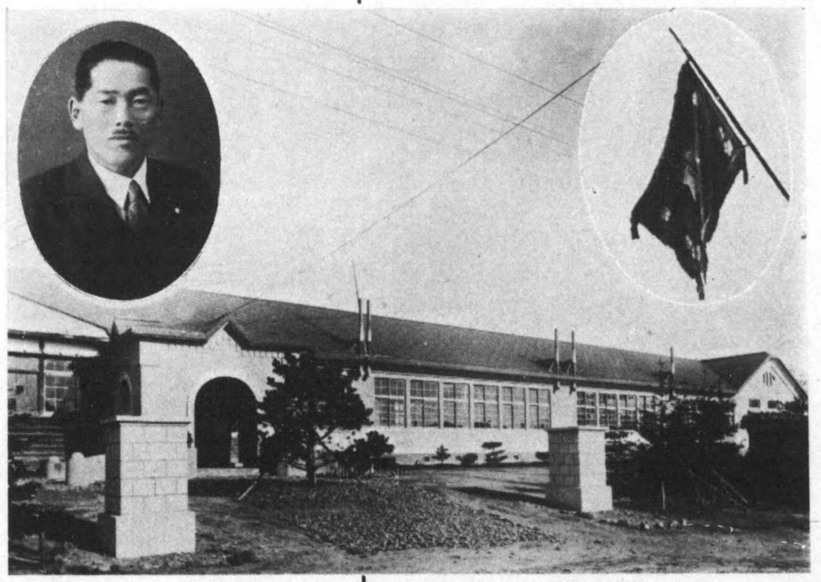
中央尋常高等小學校
校長　本間政治

大正十一年十月二日開校、西校（當時野付牛尋常高等小學校）より高等科六學級、尋常科八學級七百二十二名の兒童を分割さる昭和九年、十二年と增築現在二十三學級千五百名職員校長以下二十七名毎年兒童增加數五、六十名平均の爲現在改築豫定中、現校長は三代目。



廳立野付牛高等女學校
同　高等家政女學校
校長　中村重次郎

大正十二年五月一日公立女子職業學校認可同十三年四月迄中央校々內に教室借用、同十五年三月迄西校舊校舍借用、同三月二十三日高臺新築校舍へ移轉、昭和四年三月三十一日學年延長並二部制度認可、同七月同八年十一月同九年八月十一月增改築、同十一年三月四日第一部廢止、高等女學校認可同十二年十月一日北海道廳立となる生徒總數四百五十三名、職員十四名、卒業生八百五十八名、廳立高女五十一名。



東尋常小學校
校長　角田韓一

大正八年十月一日開校、西校（當時野付牛尋常高等小學校）より八學級五八一名の兒童を分割さる、昭和二年四月一日河東分教所設立、大正九、十、十五、昭和八、九年と增築現在十八學級、兒童總數九百八十名職員校長以下二十名、每年兒童增加數三、四十名平均、本年四月增改築決定、現校長三代目。

西尋常小學校
校長　平野德治

明治三十一年九月十日創立（當時野付牛中央尋常小學校と稱す）明治三十二年野付牛尋常小學校と改稱す、同三十四年六月高等科（四學年）併置、尋常高等小學校と改稱す、大正二年十二月現校舍落成、同八年十月東校創立兒童六〇〇名移動、同十一年十月中央校創立兒童七八五名移動同時に西校と改稱す。昭和九年十二月校舍增築兒童數一三八三名、職員校長以下二十三名、現校長十代目。

大日本赤十字社北海道支部

野付牛療院

病長　醫學博士　三宅　演
副院長　醫學博士　根本六郎
醫學博士　高橋一雄
醫學士　水上勝太郎
醫學士　中島吉巳
醫學士　三宮溫次
醫學士　佐藤亮憲
醫學士　高橋喜久雄
事務長　更科　潔
藥劑師　小濱惣三郎
レントゲン科技手　奈良貞次郎

一、療院の機構

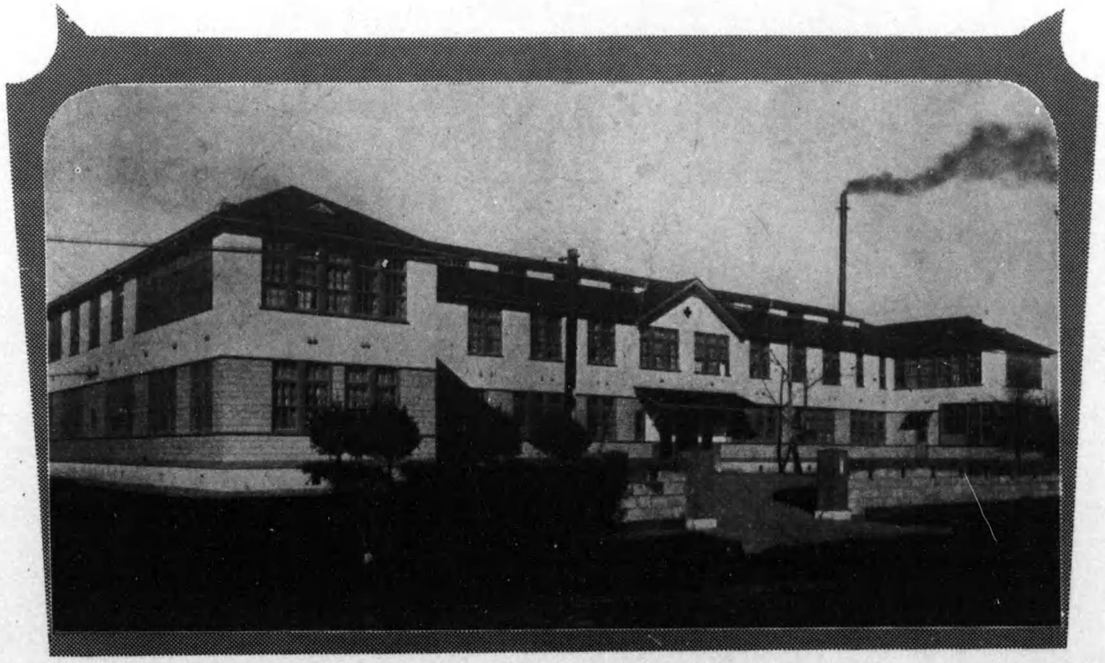
內科　產婦人科
外科　耳鼻咽喉科
小兒科　眼科
レントゲン科

二、施設の概要

敷地面積　二、〇二四坪
坪數總延坪　八七一坪六二五

內譯

本館	屋階	八〇、五〇〇
	上階	二九三、五〇〇
	下階	二九三、五〇〇
	地階	一一、二五〇
附屬建物		一九二、八七五



藤井眼科病院

院長　藤井學

略歴

本籍　熊本縣玉名郡米富村大字三ツ川二五八二番地

大正十二年三月熊本縣立玉名中學卒業

昭和五年三月日本大學醫學科卒業

病院

野付牛町に開業は昭和八年十一月十九日にして眼科にかけては北見切つての權位として今日に及ぶ。

野付牛魚菜市場

四條通り西二丁目大正十三年十二月許可、販賣品は鮮魚介、海藻類、魚獸肉、卵類、果實、蔬菜類、鹽干物類の委托、販賣にして昭和八年十二月工費一萬餘圓をもつて魚菜市場として理想的施設を有する。

㋑ 伊藤吳服店

店主　伊藤元治

大正三年四月開店以來順調なコースをすべり名をなした伊藤元治氏は新潟縣北魚沼郡小出町に生れ生來の努力奮闘が今日をもたらしたものである。

北見の主要地に支店を設け業界に萬丈の氣を吐いてゐるが振興野付牛の驛前を飾る一つのシンボルとして同店の存在は缺くべからざるものとなり、また支配人たる元治氏息元一郎氏の新進營業商策に甚大な期待もかけられてゐる。

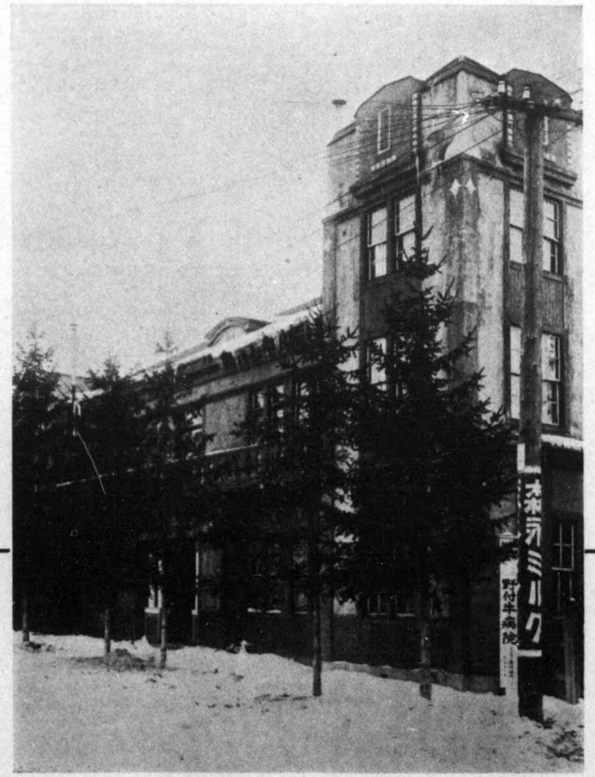
吳服部、洋裝品部、雜貨部、金物部、砂糖部、小間物部、玩具部、化粧品部、家具部

（同店の内部）

野付牛病院

院長　醫學博士　吉川弘一

明治三十五年札幌市に生る、札幌第二中學校卒業、北海道帝大醫學部卒業、同學部醫化學教室勤務、昭和二年同學部中川内科に勤務、同六年五月野町へ赴任、同十月博士の學位を授與、内科小兒科で有名



大内病院

院長　醫學博士　大内　出

宮城縣伊具郡大内村字青葉で明治廿四年十月三十一日生る、宮城縣立白石中學校卒業、東北帝國大學專門部卒業、同大學醫學部熊谷内科に於て内科學研究、北海道炭礦汽船株式會社炭礦病院に勤務、夕張郡角田村字栗山に開業、北海道帝國大學醫學部助手就任、同部講師を囑託法醫學教室勤務と幾多の經驗を重ね、昭和三年四月「同種血球凝集反應」に關する論文パス醫學博士を授與。

病院

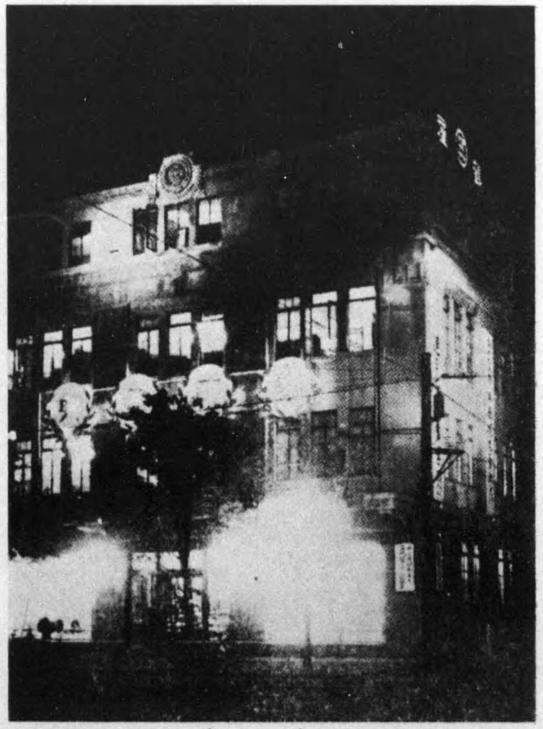
昭和三年八月來野二條三丁目に開院内科小兒科の權威者として今日に及ぶ。

丸三鶴屋店歌

東四洲に　輝く歴史
堅實進取　わが誇
拓北茲に　三十年
捧げん永久に　この至誠
これぞおゝわが鶴屋

朝に仰ぐ　み空の默示
夕に和む　わが團欒
今日も名譽の　旗手として
終日汗に　世を守れ
これぞおゝわが鶴屋

七彩きらめき　綾なす百華
四方人集ふ　常春の園
平和の奉仕　光る任
恒に新らし　我が行手
これぞおゝわが鶴屋



本　店

支　店

セ 長谷川商店

長谷川正雄

明治三十七年七月旭川に生る、浦田商店(現在本店所在地)に入店、昭和四年獨立食料品、青果類の問屋を開業、時代の波に乘つて氏の營業方針はめき〳〵と躍進し僅にして北見各地に支店を有し斷然他先輩同業者を壓し今や青年實業家として明日の完成を約束されてゐる。

野付牛ビルデング

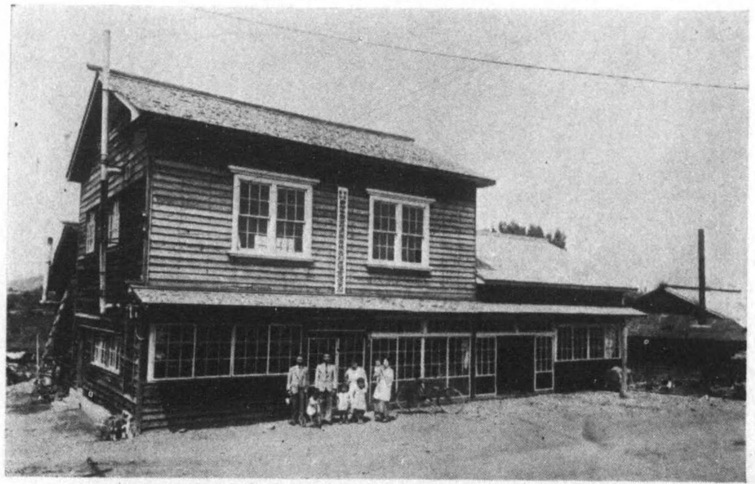
江部徹也

驛頭の美觀、堂々たる四層建に個人經營の大デパートを經營する江部徹也氏は二三年前よりビルを引受け一意その改造にあつたが、その努力酬ひられてか最近の人氣は地盤の擴張へ!!店内の美は先進都市を凌ぐの方法でありビルのマークが一つの土産物となるも近き將來であらう。

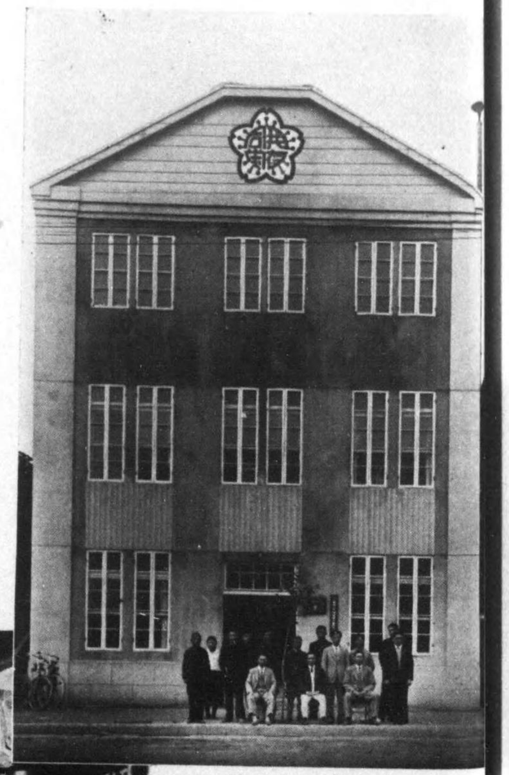
保證責任

野付牛農業信用購買販賣利用組合

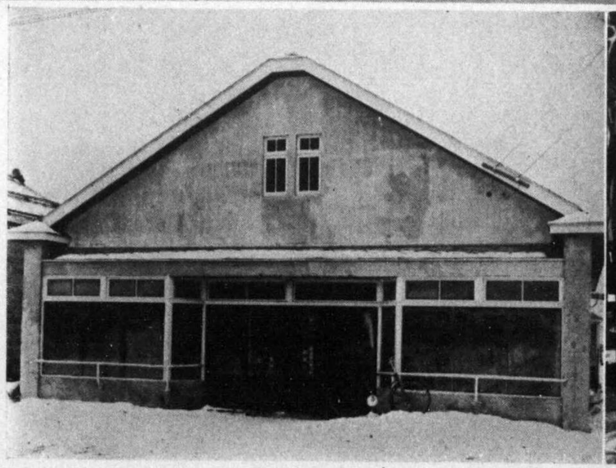
大正三年十二月二十四日無限責任野付牛信用販賣組合と稱し創立當時出資二十餘口、資金千餘圓なりしも逐次內容を整備、大正十年保證責任に改め區域を野付牛一圓及端野村の一部に擴張利用事業農業倉庫を兼營其の後歐洲大戰に依り齎された好景氣の反動に破端に瀕したも良く切拔け昭和九年野付牛西部產業組合を合併支所とする外上仁頃、仁頃に支所を設置共同作業場施設も完備北見第一の產組として隆昌にあり農村更生機關とし重きをなす。現在出資十三萬八千餘圓、組合員數千四百八十餘戶、將來を囑目されてゐる。



仁頃支所全景



本所全景



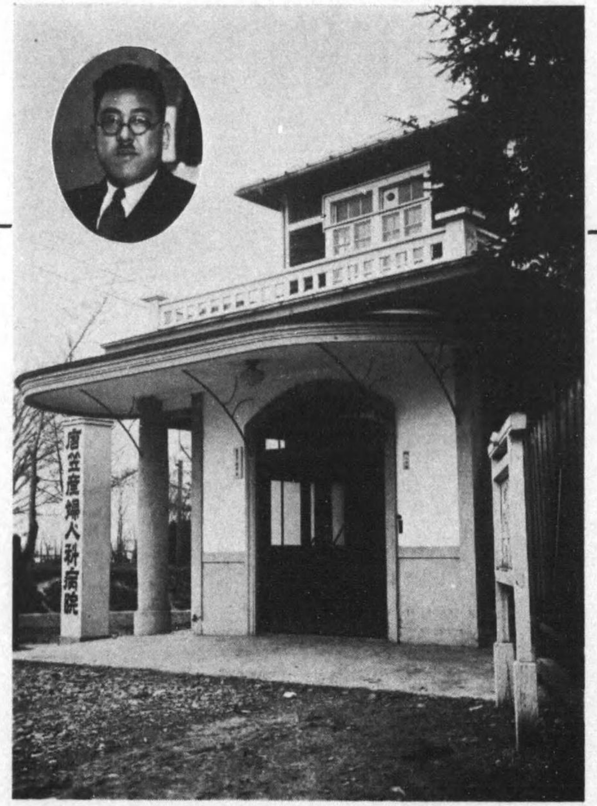
西部支店

下仁頃販賣部

西屋吳服店

大通東二丁目
帶廣支店
旭川支店

昭和二年十月開店同四年一月地方商區開拓、同六年八月帶廣支店、同十年一月旭川支店開設と矢繼早の躍進を遂げ本店並各支店付屬として製綿工場を有しフトンの西屋として東北海道を風靡、外洋裝部には專門的技術者を有し本店店員二十五名支店店員職工併せて七十名の多きにのぼる。



唐笠病院

院長 唐笠學

郵便局前横山病院跡へ開院日淺きにも拘はらず既に前者を凌ぐの感あり産婦人科の一人者として名聲あり、第二高等學校、千葉醫大卒業將來を約束されてゐる新進、最近新輸血機を完成目下特許出願中、俳句、弓道讀書と廣い趣味、劍道五段溫厚篤實で有名な宗教家。

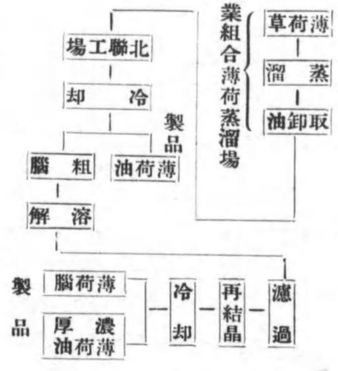
北海道信用購買販賣組合聯合會

會長　理事　小林篤一
事務理事　岡村文四郎
野付牛支所長
薄荷工場長　加賀操

北聯の薄荷

從來本道産薄荷は大部分阪神地方に移出せられてゐたのでありますが、昭和九年野付牛町に本會で薄荷再製工場を建設し薄荷の再製に從事しましてから道産製品として阪神地方のみならず直接海外に移輸出せられ名聲を博して居ります。

薄荷の製造過程圖



右の内薄荷草を蒸溜して取卸油を製造するのは一般農家並に産業組合員の仕事であります。

伊藤病院

院長　伊藤道雄

秋田縣仙北郡峯吉川村で明治十九年に生れ、郷里小學校教員生活十三年傍ら醫學を研究東北帝國大學醫學部に入學、大正十四年卒業後渡道北大有馬博士に師事實地研究。

病院

大正十五年來野二條西四丁目に開院今日に至るも內科小兒科の元老。

吉田病院

院長　醫學士　吉田角治

栃木縣鹽谷郡大宮村で明治二十一年十一月生る、東京神田錦城中學卒業後第一高等學校に學び、明治四十四年東京帝國醫科大學に入り大正四年同大學卒業大學病院產科婦人科助手となり磐木下瀨兩博士に就て學び後大正七年一月小樽植田病院にて產婦人科長として勤務

病院

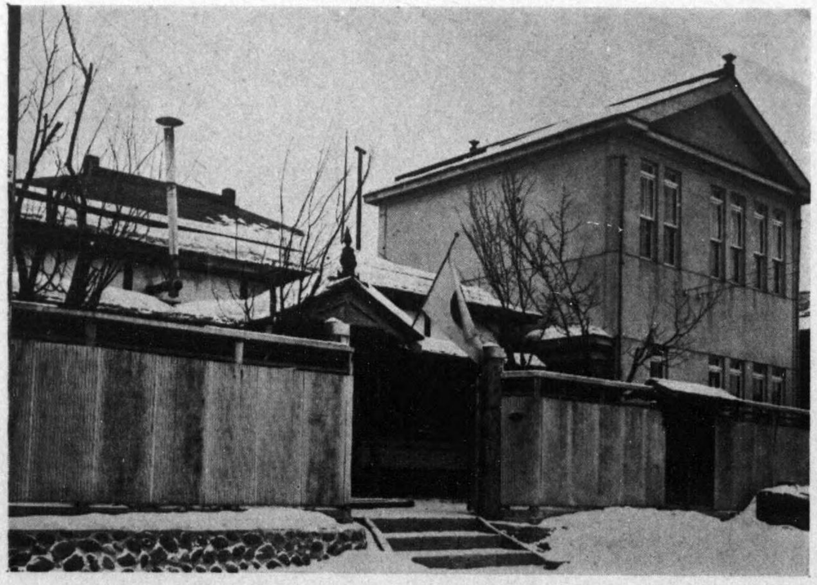
大正七年來野三條西四丁目に開院野町醫界の先輩として今日に至り產科婦人科專門醫として北見の重鎭。

齋藤賣炭所

齋藤孟男

三條東三丁目

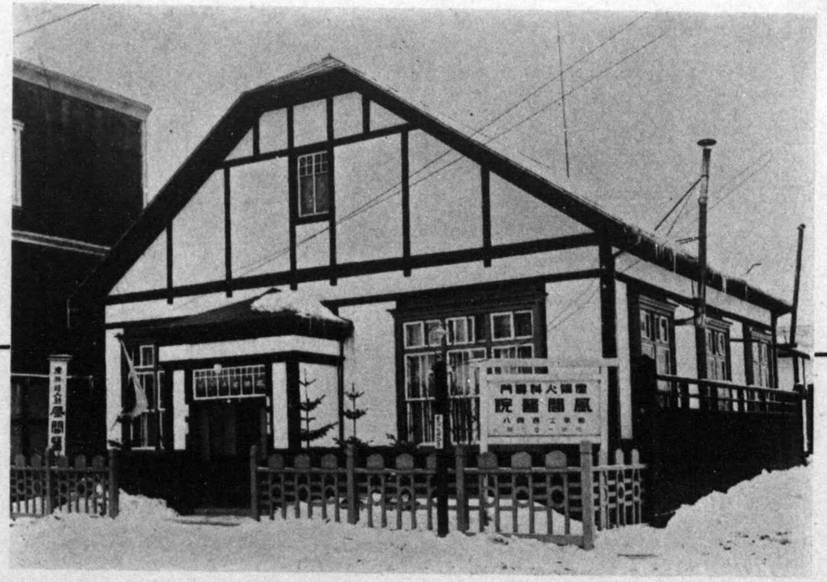
札幌郡琴似村で明治十九年十月十六日生る、三井物産株式會社木材部に明治四十一年一月入社實に十七年一日の如く努力木材界に貢獻せるも大正十二年八月退社自己の信ずるまゝ一本立ちとなり主として木材界に乘出し活動せるが昭和五年三井物産株式會社石炭部の勸めに依り同社石炭部の專屬として前途ある石炭販賣業を經營今日に及び公共事業に貢獻甚大なりと數度賞を授與、公職としては第八區々長を三期迄務め今尙ほその人望大いなり、北海中學校、札幌商業學校、北見校友會の支部長其他幾多の要職にあり、野町實業界の爲今日未來共も宿望の的。

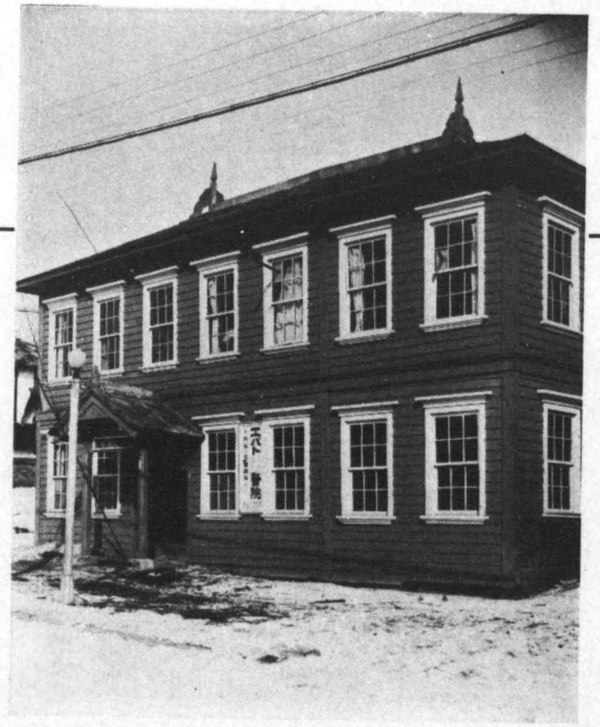


風間病院

院長　西貞八

昭和三年來野三條西二丁目に開院産婦人科として斯界の信用を篤くしてゐた院長風間茂氏の後を預つてゐる、現院長西貞八氏は若手臨床家として帝都斯界の爲に貢獻せる手腕家だけによく風間氏の後を守り北見斯界の爲に努力されてゐる。





エバト醫院

院長　江波戸榮

千葉縣山武郡二川村小池にて明治二十二年九月二十三日出生、千葉醫學專門學校卒業、千葉附屬病院長尾內科にて實地研究、茨城及東京にて開業、尙千葉醫大、東京同愛記念病院にて耳鼻科を研究。

病院

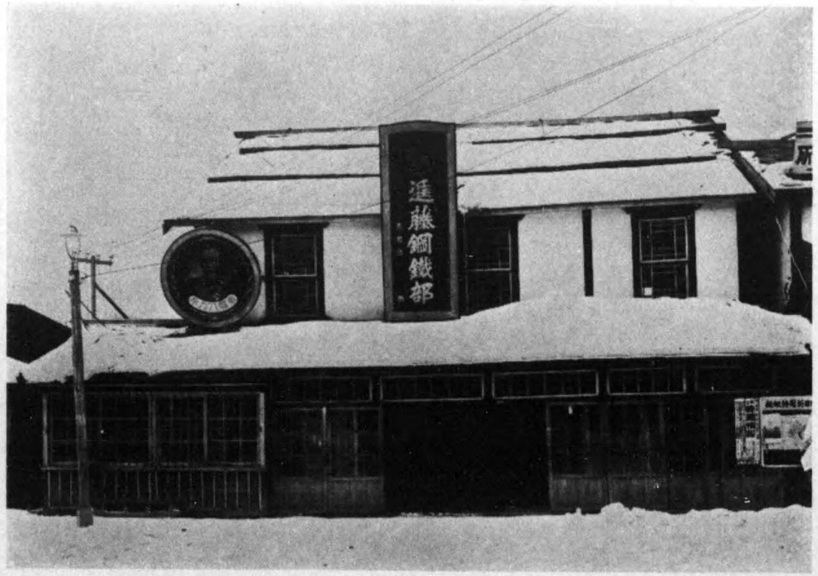
昭和七年二月來野三條東一丁目に開院現在に至るも耳鼻咽喉科としては斯界の第一人者。

金物部

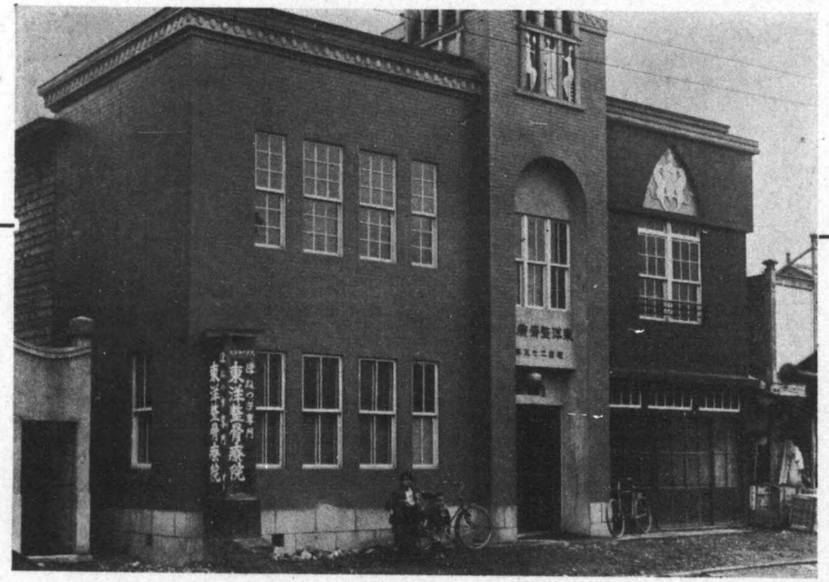
進藤金銅鐵物商

進藤英丸

㊟進藤として北見管内は勿論の事釧網、釧美、池田、名寄の各線へ商權を張り堂々躍進する同店、先代英丸氏の後をうけ保雄君が襲名二代目英丸として若き統御よく十數名からの店員を統制、訓練し先代に勝るとも劣らぬ業績は北見否東北海道業界に燦として輝く、そして明日の發展を豫約されてゐる。



銅鐵部



東洋整骨療院

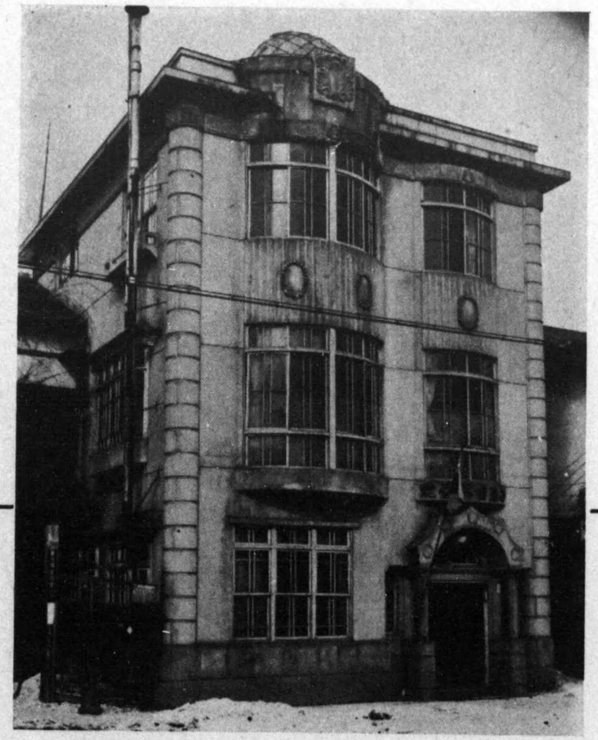
院長　黒部治平

明治二十九年愛知縣名古屋市に生る、愛知縣立第三中學校卒業、第三師團輜重兵科に入隊見習士官に任ぜられ大正七年除隊、翌八年四月輜重兵少尉に任ぜられ、正八位に叙せらる希望を抱き上京早稲田大學商科に學び家事の都合上三年にして志を斷つ渡道して從事し在郷軍人野付牛分會副會長を勤めること六ケ年にして感ずるところあり柔道整復術試驗を受け合格、日本接骨醫學士柔道整復術師となり昭和三年六月一條西一丁目に開院今日に及ぶ

伊藤齒科醫院

院長　伊藤龍七

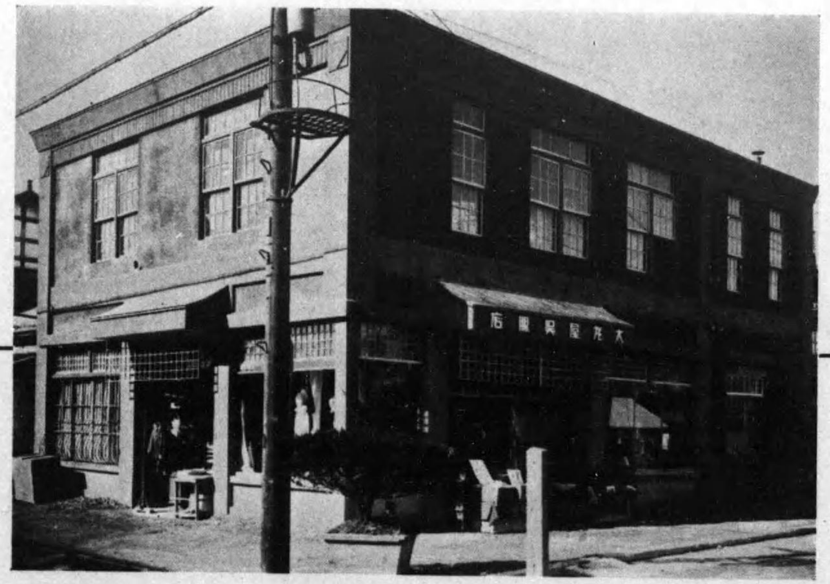
明治四十年七月山形縣西村山郡川上居村志川に生れ、四十二年來道、西小學校を卒業、山形工業東京齒科專門學校を卒業母校に研究を續け後、旭川歩兵第二十八聯隊に幹部候補生として入營豫備少尉となり除隊、一條通り西三丁目に開業、現在在郷軍人分會副長の要職にあり。



大丸屋吳服店

一條通り西三丁目

町會議員、商工會副會頭、海軍部々長と幾多の公職にある大場光三氏の經營になる大丸屋吳服店は町の中央銀座街とも云ふべき夜店通りにあり、新店舗を建築以來組織を百貨店として一大躍進を續け各地に支店を有し伸び行く力は將來へ期待されてゐる。



桑原啓次郎

新潟縣中魚沼郡中深見村で明治廿八年五月二十七日に生れ東京中學校、早大、中大に學び東京夕刊新聞に入社後、赤坂表町で帝國民報を創刊一年餘廢して旭川、十勝、釧路の各新聞を經て北見野付牛町に大正十年轉居、北見日報を創刊、中央青年團長、野付牛商工會、町議等に當選、昭和三年上京政友會院外團幹事として全國へ遊説、昭和七年北海道會議員に當選、目下北越商事並に北見種畜場代表者として活躍、更に現在では道内、内地方面へ鑛業を營み財的にも堂々他を壓してゐる。

小林病院

院長　小林九郎

略歴

明治二十八年福島縣西白河郡に生る、千葉醫學專門學校卒業後渡道、札幌病院外科に勤務後旭川赤十字病院外科に轉勤。

病院

大正十五年四月來野三條西四丁目に開業今日に及び外科の最高權威者として有名。

加藤寫眞館

二條西一丁目

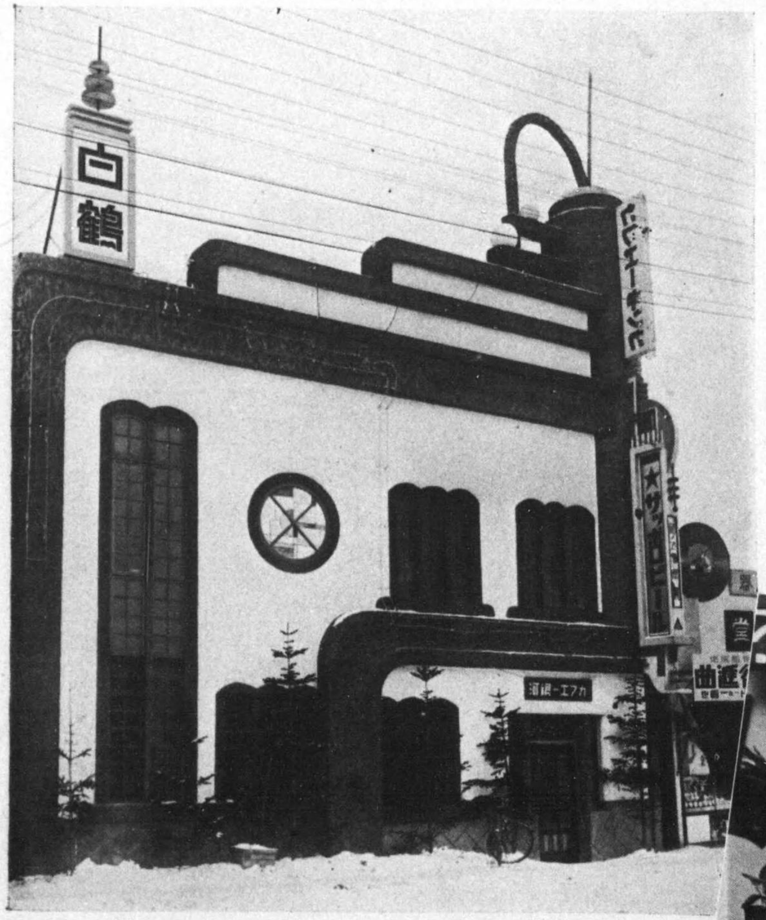
館主　加藤操

大正八年東京より來野三條西四丁目に開業、十八年目にて現館所在二條西一丁目に昨年七月移轉、今日に及び留邊蘂美幌の兩町に支店あり。ビルデング二階に出張撮影所もあり。

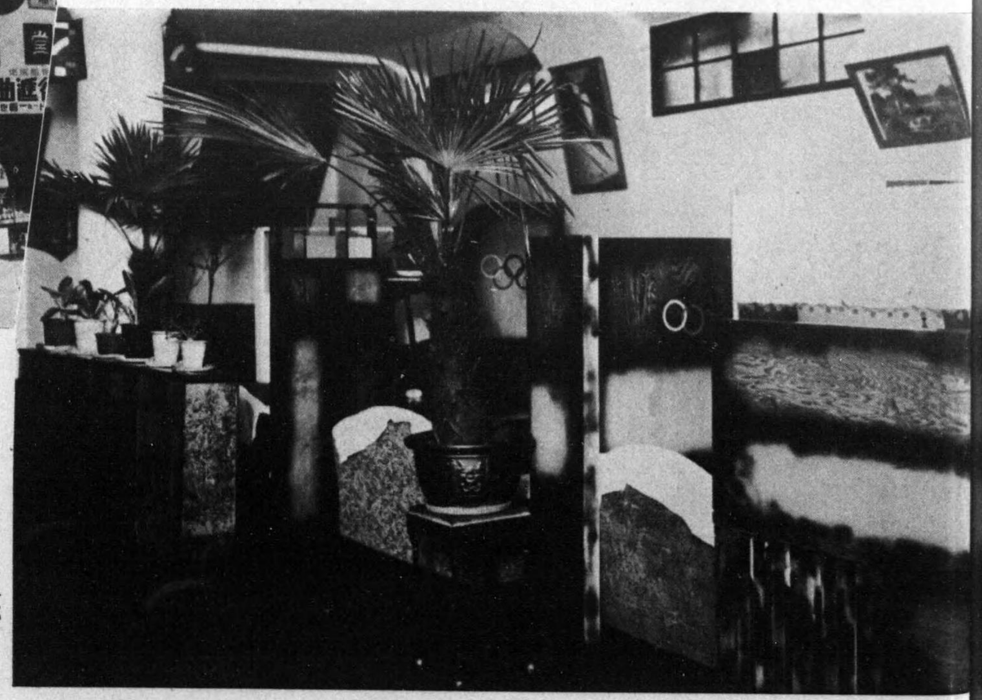
カフエー　銀河

青垣喜三郎

北見カフエー界の最高峯否、東北海道に誇る銀河は二條通り西二丁目、かつて北見の大旗亭梅の家の支配人としてその才腕を揮つた青垣氏の經營で迎へて三年完全に同業者を壓して輝く王座へ！女軍二十數名はこゝを戰場としてサービス陣へ…そうして近代人の社交場として絶賛を博してゐる、一方青垣氏は財的にも相當の樂さを見せ、まだ〳〵改造、刷新の要ありとして努力を續けてゐるから來るべき將來こそ「完成」の二字を豫約されてゐる。



全景



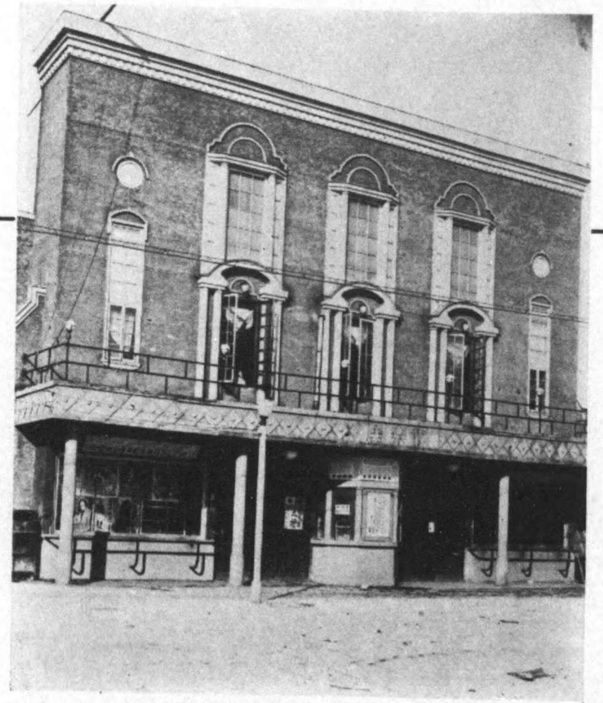
ホールの一部

諸帳簿紙
文房具一切
諸官廳御用

小柳中央堂

一條西一丁目

店主小柳宗治、昭和十年旭川市より來町大通東二丁目に卸商開業、翌十一年五月現住所に移轉、營業成績日に月に進み網走、遠輕方面にも進出將來ある店として公私共に信用絶大。



活動
常設

友樂座

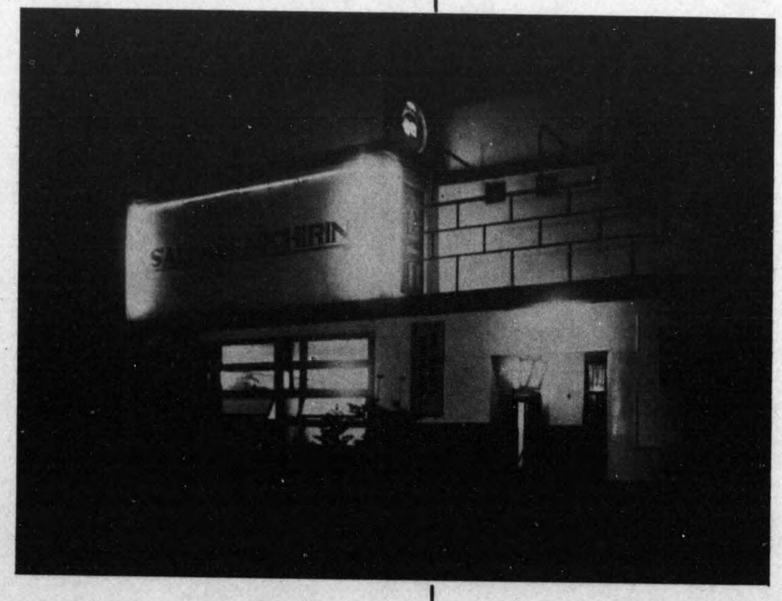
松南正平

映畫の殿堂として常にフレシュ味を盛る友樂座、松南君の經營よりグント伸びて札、樽に劣らぬ設備と高級映畫の上映で斷然たる人氣を博してゐる。先づ「映畫の觀賞は友樂」と云つた言葉も最近街に流れてゐる、同君は北中出身で母校に教鞭をとつた事もあり近代人として將來を期待されてゐる。

黑部旅館

黑部操子

明治十三年より現在の驛前へ營業、北見屈指の大旅館として洋館三層建は堂々驛頭の美觀として誇る、室內電話の便あり旅情を慰めるには充分である。



グランドカフエー 日輪

飯村忍

三條街へ近代的な社交の殿堂として白堊の如きホールは野都人否、あらゆる人の心臓を衝く！ 先代より受けた忍君はよく經營に才腕を見せ堂々北見カフエー界の王座を目指して躍進する現在女給軍十數名にしてそのサービス陣には近代人にピツタリしたところが評判である。

北見國野付牛町常恒會高台寺住職

佐伯種貞氏小傳

師は慶應二年八月十二日山口縣阿武郡萩町字堀内士族佐伯九平治を父とし、同ます子を母として呱々の聲を擧げ明治十三年同町の亘刹海潮寺上田隆天に就いて剃髪し同十八年薩州福昌寺阿川斷泥常恒會に道首先安居し、翌十九年山口縣曹洞宗中學校に掛錫し二十二年業を卒へ、其れより長野縣北安曇郡大町靈松寺安達達淳、同郡野口村大澤寺能仁義道、福井縣春日野盛景寺上野瓶城島根縣松江市宗泉寺松原見龍寺諸龍衆の會下に歴參し、廣く内外の典籍を研鑽し、更に大本山永平寺、瀧谷琢宗禪師、同森田悟由禪師、大本山總持寺畔上楳仙禪師、同石川素童禪師の爐鞴に投じ鉗槌を喫して大事を了畢し、明治二十三年夏萩町海潮寺湯津來翻常恒會に於て、立職同十月三日越大本山に瑞世就中二十六年九月十日大本山總持寺に在つて後進授業に盡力せるかにより特に賞さる。越えて三十年五月十二日京都府下船井郡川邊村幡根寺に首先住職同年長野縣北安曇郡松川村に曹洞宗説教所を設置し、三十二年冬幡根寺に於て法憧を建て化門を開き三十四年北海道開教の雄志を懷きて渡道し野付牛の地に瞩目して曹洞宗説教所を開設す。是れ實に同年五月十二日なり、三十六年五月道廳より公認を得、四十年平僧地高台寺と公稱許可され、四十二年三等法地に大正七年十二月二等法地に昇等され、翌八年三月一躍常恒會地の免牘を得、其間具に辛苦を嘗め、衣資を節して專心寺門の經營と宗風の擧揚に之勤め大正三年十月十五日管長石川素童禪師より高台寺創立並に宗風宣揚の故を以て特に賞典を下附さる。其の今日に至るまでの事業と功勞とは枚擧に遑あらず、一萬坪の境内地と完備せる伽籃とは實に能く此間の消息を語りて餘りあり、今其の一二を擧ぐれば左の如し。

一、山門樓門明治四十二年建設　一、戰役記念碑同年建設　一、庫院同三年建設　一、客室同年建設
一、大梵鐘鑄造、同年　一、位牌堂大正元年建設　一、物置納屋、同年建設　一、無常堂同八年建設
一、觀音堂明治四十四年建設　一、納骨堂大正二年建設　一、接賓同六年建設
以上總坪數三百八十四坪　此の經費二萬三千二百五十圓　住職寄附金一萬六千五十圓

以上は其の一部に過ぎず、又常に心を社會の改良に濺ぎ大正五年及び八年五千圓を投じ櫻田正見師と謀り、火葬場を設置して野付牛町に寄附し或は例月禪學提唱通俗講話會を催し禪風の擧揚民心の啓發さるゝは感謝に堪へざる所なり。

抑當寺の開創者明治三十四年五月野付牛開拓屯田設置の當時、即ち明治三十、三十一年也、三ケ中隊六百戸中二百家者曹洞宗の流れを酌む信徒從來歸崇する教義に縋便し、安心立命的旨道を窮む可く寺院を公設する事に協議纒まり、二中隊一區吉田又右門京都府船井郡川邊村幡根寺へ向け開教師在住の嘆願に應じ、開教の雄志を懷き赴任爾來霜辛雪苦五十之春秋を經て護國峯を開闢せし者也、依而檀信徒相圖り永世無窮顯彰とし肖像を建設する者也。

寺格昇進與特要經歴

明治三十六年説教所公稱同四十年平僧地高台寺と公稱同四十二年法地昇等大正七年二等法地昇等、同八年常恒會免牘を得同三年永源寺派管長葦津禪師親教、同六年武大本山貫主石川禪師親化、同十三年越大本山貫主北野禪師戸羅會戒師、十四年建長寺派管主管原時保禪師親教、昭和五年自戒師戸羅會勤倚戒第百五十、大正十三年道廳長官敷地一萬坪特許。

本宗之公職與社會業仕年歴

大正三年北見各宗佛教聯合會長、同六年北見曹洞宗佛教聯合會長、同八年教育興隆會特派專使、昭和元年越本山永平寺秋期御征忌代香師、同四年北海道巡回兩本山布教師、同三年教育興隆會督勵使、同三年大本山大遠忌督勵使、同五年大本山二祖禪師大遠忌中警備都管、大正三年茶毘場公建設置本町（寄附、同十四年建國幼稚園四宗合同設置經營、昭和五年、三十年記念式典之日建設肖像之丈二十七尺。

主なる建設物

一、大正十一年舊新茶毘萬靈石像丈三丈　一、大正十二年清露滿戰役殉國忠魂塔丈二丈八尺
一、大正十一年より同十五年完成　五百羅漢尊勸請　一、大正十年四國八十八ヶ所分請堂宇　百五十坪八十八躰石像
一、昭和九年六月天台眞言淨土眞宗法華本宗達磨承陽常濟八宗の高祖大師勸請
護國山高台禪寺　住職　佐伯種貞

資格、一等教師

一、寺格、常恒會　級階　五十九級、　兼留邊藥武華　大泉寺住職
一、選擧肅正委員　二、方面委員　三、銃後々援會委員　四、野付牛佛教團長　五、屯田共同墓地管理者
昭和十二年八月二十五日大本山貫首　伊藤道海禪師授戒修業

仁科玄一

西屋呉服店の創立者にして努力奮闘家、現町會議員として町民の信望厚く、亦町へもたらした功多く赤十字病院の創設に對する苦闘はまだ耳新らしいことであるが政治家である氏はその反面實業にも冴へた手腕家である。

三上清治

略歴

埼玉縣所澤町で明治四十一年三月一日生れ、同四十三年父と共に野付牛町北光社に移住西小學校を卒業、大正十五年東京工科學校電機科を了へ、專修大學、日本大學に政治經濟を學び、政友會院外團、同支部書記を經て歸野後慈德會中等學院、並慈德會託兒所を經營、その後實業界に轉向板谷生命東北海道支部長並佐上板谷農場管理人として今日に至る。

常念寺

住職 中野哲也

明治三十六年九月一日石川縣珠洲郡西海村字大谷願念寺に生る、大正九年十一月來町大谷派說教場に在勤、昭和六年四月八日付常念寺創立許可され功なし名遂げて今日に及び非常時局にあたり釧路聯隊區より國防思想布說師を囑託さる。

野付牛海軍班局

高橋正平

大場光三

班長　大場光三
副班長　八谷幸造
副班長　高橋正手

八谷幸造

野付牛海軍班は昭和八年創設され同十二年現班長大場光三氏推されて就任するや部内の刷新に盡瘁全面的な改組を行ひ今日に至る。銃後の守りに一致當り出征將士遺家族慰問に歡送に會員融和に努め其の活動は諸團體の範とされてゐる。

野付牛衛生組合

長合組

四區同　兒玉軍作
五區同　山田宇平
六區同　宍戸源三郎
七區同　笹沼作治
八區同　梶川泰輔

副組合長

組合長　伊藤勘七
副組合長　江部徹也
一區常議員　藤崎覺
二區同　植松作丸
三區同　八谷幸造

大鑑を擔當の本社員

西村陽一郎

淺野　城

戸谷澤慶吉

社長　高僧幹彦

明治四十年十一月廿八日釧路國厚岸町に生れ同小學校卒業、札幌市北海中學校に學び昭和二年釧路日日新聞入社後根室、帶廣旭川の各日刊紙を經て昭和六年野付牛町北海毎日新聞社に入社、昭和十一年獨立旬刊「新北見」を發刊、十二年二月「日刊新北見」となり同十月北海毎日新聞を買收併合社業擴張現在に至る。

本社は昭和十一年十月旬刊として創立翌十二年二月一日日刊に擴張、同年十一月創刊以來十餘年の歴史を有す北海毎日新聞を買收併合と同時元同社跡三條東三丁目に移轉今日に至る。短期間に拘ず順調の過程にあるは一に新聞事業に理解深き諸賢の御協讃御指導による賜にて社員一同常に感謝の念を深くしてゐるところであります。近く寫眞銅版部並紙面の擴張をなし鄕土新聞としての使命を全ふ御支援に報ひ度く一層の御鞭撻を切望する次第である。

野付牛町大通西三丁目
米穀料穀
雜肥
立川商店
電話二一二番
出張所 五〇二番

野付牛町
中川商店
マルヨ石油部 電話二三七番
マルヨ食堂部 電話一二三番

野付牛町大通り
處方調剤
一般藥品
衛生材料賣藥
化學分析
渡邊東西藥局
藥學士 藥劑士 渡邊昇
電話 東四一四番 西一七四番

野付牛町一條東三丁目
齒科專門
門脇齒科醫院
院長 門脇正明
電話二八四番

野付牛町一條西一丁目
齒科專門
北村齒科醫院
院長 北村定雄
副院長 廻忠
【齒科・レントゲン科】 電話六二番

野付牛三條西一丁目
齒科專門
田中齒科醫院
院長 田中傳三郎

野付牛町一條東二丁目
野付牛名物土產品はトラヤ
洋生食パン
トラヤ菓子舗
店主 丸山寅吉
電話四〇一番

野付牛町組合銀行
株式會社 安田銀行支店 電話五〇番
株式會社 北海道拓殖銀行支店 電話七四番
株式會社 十二銀行支店 電話一二番

野付牛一條西二丁目
驛構內立賣指定
支那料理 カフエー
市川待合
電話五七番

酒界之權威
全國品評會
名譽賞受領

釀造石數
本道第一

釀造元
日本清酒株式會社

營業所
札幌・小樽・旭川
帶廣・名寄・瀧川
函館・室蘭・余市
野付牛・遠輕・夕張
留萌

昭和十三年五月十日納本
昭和十三年五月十五日發行　（定價一部金拾圓）

北海道常呂郡野付牛町三條東三丁目
編輯兼發行人　高僧　勇

北海道札幌市大通西五丁目
印刷人　中西吉之助

北海道札幌市大通西五丁目
印刷所　中西寫眞製版印刷所
電話　三、一九一九　一、九四七番

不許復製

北海道常呂郡野付牛町三條東三丁目
發行所　日刊新北見社

終